

名 称	鹿沼市小中学校再編計画策定に向けた意見交換会（栗野地区）について
日 時	令和 6 年 5 月 8 日（水）19 時 00 分～20 時 02 分
場 所	栗野コミュニティセンター
出席者	参加者：13 名
内容及び 結果等	【質問】 義務教育学校とは何か。 【回答】 前提として、小中一貫教育というものが大きな枠としてあり、新たな教育体制として平成28年に制度化された。 制度化の背景としては、中学校進学時の中 1 ギャップや身体的発達の早期化、学校現場の課題の多様化・複雑化、教育内容の量的・質的充実、家庭・地域の社会性育成機能の低下及び学校の役割増大などがあげられる。 義務教育学校とは、9年間の義務教育を1つの学校組織として一貫的に実施する学校であり、1人の校長のもと、1つの教職員組織が置かれ、子ども達の情報を共有しながら1～9年生までの指導を行う学校の形態である。教育課程は、通常の小中学校と同様である。特徴としては、柔軟な学年区切りが可能となる点や外国語学習・地域の防災・伝統文化等を学ぶ新教科等の創設が可能な点、学年・学校段階間での指導内容の入替えなどの特例が認められている点があげられる。 同様の仕組みとして、既存の小中学校の形を残した小中一貫校という仕組みがある。小中一貫校では、小中学校にそれぞれ学校長と教職員組織が置かれ、義務教育学校と同様の小中一貫教育を施す形態となる。 【意見】 栗野地区に関しては、統廃合は急務と考えるが、資料では適正規模とされている栗野小の実態として、一学年 15, 6 人しかおらず、30人規模の学校の適正化とは中身が違うと思う。 骨子 p.3 に示された児童生徒数の推移を見ると、令和10年の時点で栗野地区全部を統合したとしても1学級しか編成できない。同様に、加蘇地区や南摩地区の統合がされたとしても、1学年1学級の編成になってしまう可能性がある。 再編にあたっては最低でも1学年2学級の編成が可能な状態を目指すべきであり、教員の立場としては、それが適正な規模と考える。理由としては、1学級の場合人間関係が固定化されてしまい、うまくいかなかった時に新しい人間関係を構築できなくなってしまう恐れがあるためである。また、適正規模に見込まれるメリットもクラス替えができて可能になったという意見も出ていた。 2学級規模への調整が必要と個人的には考えるが、市として現在の編成基準自体を見直す考えはないのか。 【回答】 現在の適正配置の基準は、鹿沼市の教育ビジョンが策定された当時から同じ基準を

	用いており、学校配置の実情や歴史・地理的要因等を鑑み設定されたものである。 今回の再編計画は、「これらの基準を下回る状態となった学校をどうするか。」という視点からスタートしたものであるため、既存の基準を用いて骨子を作成した。 現時点でこれらの基準を見直す考えはないが、ご意見として頂戴する。
	【意見】 統廃合について、栗野地区ではすでに中学校の統廃合が実施されており、行く行く小学校も統合されるだろうという空気感があったように感じる。 今の中学3年生が「栗野中で最後の2クラス」と言われており、小学校では栗野小の6年生が一番多くて17人のクラスである。中学校に入ってもクラス替えを経験することなく、高校などの次のステップへ進むことになってしまう状態である。 現在の案で示された南摩中が西中へ統合されることになると、栗野地区の中学生が増えることはなく、「栗野地区はここまでだよ」と言われているような気がしてしまう。 【質問】 学区について、清洲第二小は南押原に近く、西沢町に住んでいる方は栗野が近いと思うが、学区の見直しをしないまま再編を進める考えか。 【回答】 再編にあたって学区を見直す場合、現在同じ学校に通っている子ども達が離れ離れになってしまうことも考えられるため、学校ごとの統合により適正規模へと解消することを原則としている。 なお、栗野地区での再編案を考えるにあたっては、通学時間や現在1つの中学校に通っている実情などを考慮した上で、案として示させていただいたものである。 ただし、一旦計画が決まった後の10年、20年後の児童生徒数がどうなっていくかについては、引き続き検討する必要がある課題として認識している。はっきりとした年次はお伝え出来ないが、適正規模となるように適宜地域への相談をさせていただきながら、そういった考えも検討していかなければならないものと捉えている。
	【質問】 骨子 p.3 に令和15年度の児童生徒数見込みが記載されているが、まだ生まれていない子どもの数をどのように見込んでいるのか。 【回答】 令和15年度の児童生徒数見込みについては、国立社会保障・人口問題研究所で示された鹿沼市の将来出生数の減少率と各地区で生まれた実際の子どもの数をかけて推計したものである。
	【意見】 案として概ねの方向性は決まっているものと思うが、個人的な意見としては、南摩地区から栗野地区に来てもらった方が良いと考える。
	【質問】 保護者対象アンケートについて、再編を望む保護者が多いことは理解したが、アンケー

	トをもとに作成した再編案を保護者へ説明はしているのか。 【回答】 昨年度の2月から保護者及び学校運営協議会向けの意見交換会を中学校区ごとに開催し、会の中で骨子案についても説明済みである。現在は地域住民向け意見交換会を各地域において順々に開催している状況である。 計画策定後には、学校や地域の方に対して、具体的な計画内容やスケジュール等の説明を実施し、皆様に相談させていただきながら丁寧に進めていきたいと考えている。 ～事務局から事務連絡～ 1 いただいた意見は、全地区終了後、個人情報に配慮した形で HP 上に掲載させていただく。 2 今後のスケジュールとしては、6月までに全 15 地区の地域住民向け意見交換会を実施し、7月からはいただいた意見を踏まえた検討、9月にパブリックコメントの実施、10月に計画策定を目指している。 3 計画策定後は、改めて地域に訪問して説明を予定している。 <閉会>20:02
配布資料	・学校再編の目的 ・小中一貫教育について ・鹿沼市小中学校再編計画骨子及び鹿沼市の小中学校の配置図 ・アンケート用紙